

令和8年度第1回米子市まちづくり活動支援交付金審査委員会 議事録（概要）

○開催日時 令和8年5月26日（火） 13時30分から16時55分まで

○開催場所 米子市役所本庁舎2階 201会議室

【各申請団体プレゼンテーション概要】

申請団体1

福米中学校区防災体験キャンプ実行委員会

事業名

2026 福米中学校区防災体験キャンプ

事業概要

福米中学校区の住民を対象とした親子防災体験キャンプの実施。

《発表内容》

- ・福米中学校区の児童・生徒を対象に、中学生ボランティアを含む有志が企画・運営する親子参加型の防災学習事業である。
- ・災害時に「自分の命は自分で守る（自助）」意識を高めるとともに、要支援者の避難支援や地域で助け合う「共助」の担い手育成を目的としている。
- ・防災をテーマに、自治会加入の有無を問わず地域住民のつながりづくりにも取り組んでいる。
- ・今年度で6回目の開催となり、参加費を活用しながら継続して実施している。

《質疑応答》

- ・事業収入（参加費）の積算根拠について。
⇒昨年度の参加実績を基に算出しており、単年度清算を原則として参加費を設定している。
- ・需用費の「記録費」の内容について。
⇒活動報告用の写真印刷代などに充てる経費である。
- ・PTAや公民館、他団体との連携について。
⇒公民館や地域団体との連携を進めており、今年度は育成会や地区社会福祉協議会関係者も実行委員会に参画している。
- ・避難所生活を想定した実践的な訓練となっているか。
⇒テント設営や避難所レイアウトの再現など、実践的な内容へ発展しており、今後は参加者拡大を目指している。
- ・将来的な財源確保と今後の展望について。
⇒育成会や社会福祉協議会等からの支援も視野に入れ、持続可能な活動の継続を目指している。

申請団体2

特定非営利活動法人コーカラ健康塾

事業名

地域高齢者の健康づくり、大人、親子でものづくり

事業概要

地域高齢者の終生現役支援及びものづくりを通じた大人、親子の絆構築。

《発表内容》

- ・高齢者の健康づくり支援事業として15年前に設立され、大山町や伯耆町を中心に活動している。近年は弓ヶ浜地区や上後藤地区にも活動を広げている。
- ・自治会役員からの相談をきっかけに、高齢化や地域住民同士の交流機会の減少といった課題の解決を目指し、多世代交流事業を計画した。
- ・地区公民館を活用し、子どもから高齢者までが交流できる健康づくりやものづくり活動を実施し、地域コミュニティの活性化につなげることを目的としている。
- ・事業の成果を踏まえ、今後は他地域や他自治会への展開も視野に入れている。

《質疑応答》

- ・上後藤地区での活動実績について。
⇒昨年11月に親子約40名が参加するデモ事業を実施し、世代間交流や健康づくり活動を行った。
- ・高齢者と親子の交流状況について。
⇒デモ事業では実際に世代間交流が図られていた。
- ・上後藤地区での今後の展開について。
⇒デモ事業が好評だったため本格実施を決定し、健康づくり教室や親子向け教室を開催する予定である。
- ・他団体との事業重複について。
⇒類似事業はあるが、幅広く参加を受け入れる形で差別化している。
- ・参加料や運営体制について。
⇒参加料は500円とし、運営はボランティアスタッフが担っている。

申請団体 3

奈喜良自治会

事業名

奈喜良夏フェス

事業概要

誰もが参加できる祭りを開催し、住民同士の親睦を深め顔の見える地域をめざす。
竹あかり製作を通じた放置竹林の手入れを行なう。

《発表内容》

- ・永江地区では、コロナ禍以降減少した住民交流の機会を増やすため、多世代が参加できる交流イベントを実施している。
- ・昨年度は夏祭りや竹あかりづくりを行い、地域活性化と交流促進を図った。
- ・今年度も夏祭りを開催し、のぼり旗を活用して参加促進を図る。
- ・今後は花見や収穫祭などにも発展させ、多世代交流や地域課題への関心向上につなげたい。

《質疑応答》

- ・事業と公民館祭との違いについて。
⇒公民館祭とは別に開催する自治会独自の夏祭りであり、地区外からの参加も歓迎している。
- ・綿菓子機やのぼり旗の保管について。
⇒自治会集会所及び隣接倉庫で保管する予定である。
- ・竹あかり製作の目的について。
⇒竹の有効活用に加え、放置竹林問題や地域環境への関心を高めることを目的としている。
- ・綿菓子機購入に対する交付金の適用について。
⇒事業実施に必要な備品として対象範囲内であると事務局から説明があった。
- ・祭りが集中する時期の運営負担について。

⇒今後は負担軽減や事業継続の観点から、開催時期の分散も検討していきたい。

申請団体 4

「結（ゆい）の会」

事業名

郷土のタカラ「弓浜緋」と「伯州綿」

事業概要

「弓浜緋」「伯州綿」の展示、講演会、ワークショップによる情報発信を通して、地域の伝統的文化と技術を次世代に伝え、後世に継承する。

《発表内容》

- ・米子市文化ホールにおいて、地域の伝統工芸である弓浜緋と伯州綿の魅力を発信するイベントを開催する。
- ・弓浜緋と伯州綿は鳥取県西部に江戸時代から伝わる伝統産業であるが、近年は需要や生産量が減少していることから、地域資源の活用と継承を目的に活動している。
- ・昨年結成した「結の会」を中心に、歴史や文化の継承、伝統技術を体験できる機会の提供に取り組んでいる。
- ・昨年度は東京、境港市、山形県でイベントを開催するなど、県内外で普及啓発活動を行った。

《質疑応答》

- ・地元での認知度について。
⇒若い世代を中心に認知度は低く、「弓浜緋」「伯州綿」という名称自体を知らない人も多いことから、まずは伝統工芸の存在や魅力を知ってもらうことを重視している。
- ・昨年度の境港市でのイベント実績について。
⇒来場者数は321名で、子どもから高齢者まで幅広い世代が参加し、県外からの来場もあった。周知はチラシ配布に加え、テレビやラジオなどのメディアを活用して行った。
- ・今回の広報活動について。
⇒昨年度と同様に、関係機関やメディアへ後援を依頼し、広く情報発信を行う予定である。
- ・昨年度との事業内容の違いについて。
⇒体験プログラムの充実に加え、弓浜緋や伯州綿の歴史や魅力を伝える紹介パネルの展示も予定している。

申請団体 5

福米 RCS

事業名

地域の力で子どもを守る-地域団体紹介冊子作成事業（可視化による関係づくりの促進）-

事業概要

地域担い手の存在を「顔の見える形」で共有し、子どもや保護者の安心感の向上および地域との心理的距離の縮小を図る。

《発表内容》

- ・福米東地区で子どもたちを支える地域住民の活動や思いを冊子としてまとめ、「見える化」することで、地域とのつながりや支え合いの意識を高めることを目的としている。
- ・冊子には、地域住民がどのような活動を行っているかを写真やメッセージとともに掲載し、QRコードを活用して詳細な情報も発信する予定である。
- ・取材や写真撮影は福米 RCS が主体となって実施し、中高生の RCS サポーターも参加することで、

地域活動への理解や主体性の向上を図る。

・冊子を通じて住民同士の顔が見える関係づくりを進めるとともに、中高生が将来の地域活動の担い手となることを期待している。

《質疑応答》

・冊子 3,000 部の配布先について。

⇒小学校を通じて全児童へ配布するほか、自治会役員や地域活動関係者への配布、公民館等への設置を予定している。

・「地域活動参加促進案内物作成費」の内容について。

⇒掲載協力依頼文や完成イメージ図の印刷費、冊子内容を拡大したポスターを学校や集会所等へ掲示するための経費である。

・取材対象となる地域活動者について。

⇒交通安全指導員など、地域で長年活動している方が多く、中には 20 年以上継続している方もいる。

・冊子以外の情報発信方法について。

⇒子どもと保護者が一緒に閲覧できることや、高齢者にも親しみやすいことから、今回の事業では紙媒体による冊子作成を重視している。

申請団体 6

城下町のまちづくりを進める会

事業名

みんなにやさしいまちなか空間づくり事業

事業概要

まちなかの街路が、高齢者や歩行に障害のある方も含めたすべての歩行者に優しいストリートであるため、だれでも、いつでも『ひと休み』できるベンチを制作・設置する。

《発表内容》

・米子港周辺は米子市が推進するウォークブルエリアであり、多くの観光客や地域住民が利用する場所である。

・一方で、高齢化が進む中、エリア内には高齢者や観光客が気軽に休憩できるベンチが十分に整備されていない状況にある。

・今後の来訪者増加を見据え、誰もが利用できる休憩スペースとしてベンチを設置し、利便性や滞在環境の向上を図ることを目的としている。

《質疑応答》

・米子工業高校や米子高専との連携について。

⇒学校側への打診は行ったが、今回の対象エリアでの事業展開は難しい状況であった。

・木製ベンチの維持管理について。

⇒高価な耐久性の高い木材の使用は難しいため、劣化を抑える観点から屋根のある民地等への設置を想定している。

・設置場所について。

⇒店舗などの私有地を中心に、協力を得ながら設置場所を確保する予定である。

・ベンチの製作方法について。

⇒専門業者への発注では費用負担が大きいいため、材料費や実費程度で協力してもらえる地域の技術者等へ製作を依頼する予定である。

申請団体 7

HAYASHI LABO

事業名

HAYASHI LABO～ふれあいの会～

事業概要

若者を中心とした有志による研究活動の成果を、地域住民向けの研究発表イベント等を開催することによって高齢者との世代間交流や地域活性化を図る。

《発表内容》

- ・米子高専の学生を中心とした研究チームが、公民館等で地域住民を対象に研究成果の発表や体験型プログラムを実施する取り組みを想定している。
- ・内容としては、講談鑑賞、社交ダンス体験、詐欺サイトの見分け方講座など、幅広い分野の学びや体験を提供することを検討している。
- ・これまで出前講座は単発で終わることが多く、地域との継続的な関わりが課題となっていたため、地域・自治体・研究チームの三者連携による継続的な取り組みを目指している。
- ・世代間交流の促進や地域住民の健康増進につなげることを目的としている。

《質疑応答》

- ・実施場所について。
⇒地域の公民館を活用し、複数地域を巡回しながら実施する予定である。
- ・実施回数と会場の関係について。
⇒3回の実施を予定しており、それぞれ異なる公民館で行う計画である。
- ・対象者について。
⇒高齢者に限定せず、若い世代にも参加してもらうことを想定している。
- ・企業との協働の方向性について。
⇒まずは地域住民に研究成果を体験してもらうことから始め、その後段階的に企業との連携へ発展させていきたい。

申請団体 8

夜見地区自治連合会

事業名

夜見地区見守りマップ作成事業

事業概要

安心・安全に暮らせる地域をつくるため、自治会・民生委員等と協力して「見守りマップ」を作成する。

《発表内容》

- ・夜見地区は人口約4,600人、世帯数約2,070、高齢化率約32%の地域である。
- ・自治連合会が中心となり、関係団体と連携しながら夜見地区ケア会議を開催し、防犯・防災や高齢者見守りについて協議を進めてきた。
- ・先進事例の視察なども行い検討を重ねた結果、地域全体で共有できる「見守りマップ（支え愛マップ）」を作成する方針となり、本事業の申請に至った。

《質疑応答》

- ・各自治会での支え愛マップ作成状況と連合会としての進め方について。
⇒各自治会ごとに取組状況に差があるため、個別対応ではなく、自治連合会が主導して地区全体で統一的に作成することで、効率的かつ確実に整備を進める方針とした。

- ・作成委託料の内訳について。
- ⇒主な経費は住宅地図の著作権料である。

申請団体 9

米子福生風の会

事業名

第 19 回米子福生大凧揚げ大会

事業概要

子どもも大人も凧作りを通して手作り文化の育成と継承を進めながら、地域コミュニティーの活性化を促進する。

《発表内容》

- ・本大会は地域まちづくりの一環として継続して実施され、子どもや自治会、企業による凧揚げを通じて交流が図られてきた。
- ・一方で、自治会凧の定着や長時間の凧揚げが難しいという課題があり、去年は複数自治会や子どもたちによる連凧の取組を行った。
- ・連凧の実施は好評であり、今後は彩りや安定性を高めた連凧を通じて、手づくり文化の継承と地域交流の促進を目指していく。

《質疑応答》

- ・歌唱指導料の内容について。
- ⇒「福生風の会」に伝わる凧の歌の指導を受けるための経費であり、将来的には第 20 回大会に向けて音源化も検討している。- ・企業凧の参加範囲について。

⇒自治会エリア外の企業も参加可能としている。- ・記念誌や CD 制作の位置付けについて。

⇒第 19 回大会の活動記録として制作し、第 20 回記念大会へつなげる資料として活用する。- ・今後の継続性について。

⇒凧揚げ文化の継承を目的に今後も継続し、公民館でのクラブ化なども含めて発展させていく考えである。

申請団体 10

米子市美術館後援会

事業名

アートフルなまち米子！～このまちでアートを楽しもう～

事業概要

米子市美術館後援会創立 40 周年を記念し、全国でも他にない取組みとして、絵画・書道・写真・工芸等の地元作家の作品を一同に展示する合同展を開催し、地域全体の文化度を高める。

《発表内容》

- ・団体設立 40 周年を記念し、来年 3 月に米子市美術館で絵画・書道・写真・工芸など多分野による合同作品展を開催する。
- ・本展では、若手作家や地域作家に発表の機会を提供するとともに、団体としての展示を通じた創作活動の活性化や次世代育成を図る。
- ・また、多様な分野の作家が一堂に会することで交流を促進し、地域文化の向上を目的としている。
- ・今後も継続的な開催を視野に入れ、5 年後の再開催も目指している。

《質疑応答》

・展示作業委託料の内容について。

⇒大型作品の搬入・設置など専門的かつ体力的負担の大きい作業を外部業者へ委託するための費用である。役員の高齢化を踏まえ、継続的な運営体制を確保するとともに、若手作家の参加しやすい環境整備も目的としている。

申請団体 1 1

ひがしやマルシェ実行委員会

事業名

第4回ひがしやマルシェ

事業概要

- ・中学生がマルシェを企画・運営し、地域を盛り上げる。
- ・中学生が企画・運営するプロセスを記録し、県内の誰でも“地域おこし”ができるモデル事業を創出。
- ・地域の企業やお店を集め、全年齢層が楽しめるようなマルシェを開催する。

《発表内容》

・東山地区において、中学生が主体となってイベントを企画・運営し、住民同士を結びつける「地域を繋ぐ場」を創出する。

・過去の開催では来場者が若者や親子連れに偏っていたため、今回は「全年齢層の来場」を目標に掲げる。

・休憩スペースの設置や、公民館のクラブ・同好会による出店、演奏、ステージ発表を行い、幅広い世代が参加できるイベントを目指す。

《質疑応答》

・内訳書に記載されている「協賛金」とは、地区内の企業等から協力をいただくものか。

⇒企業から直接協賛金を募るのではなく、東山中学校の出店売上を実行委員会へ寄付いただく方向で調整を進めている。

・公民館のクラブや同好会の「発表の場」は、会場内のどのあたりに設ける計画か。

⇒会場端の飲食スペース付近に確保する空きスペースを活用する予定である。

・イベント出店料 1,500 円の考え方について伺いたい。

⇒前回の意見を踏まえ、今回から初めて出店料を徴収する。まずは事業者の反応を確認し、今後の見直しを検討したい。

【審査結果】

◇審査結果

申請のあった 10 団体の事業を「採用（交付金の交付）」と判定した。

残り 1 団体の事業は「不採用（交付金の不交付）」と判定した。

◇交付金の交付に当たっての審査会からの付帯事項

（福米中学校区防災体験キャンプ実行委員会）

子どもやその保護者だけでなく、高齢者も参加できる取り組みについてもご検討いただきたい。

（特定非営利活動法人コーカラ健康塾）

対象エリアを拡大していく中で、実施体制の確保に留意しながら事業の展開を図っていただきたい。

（奈喜良自治会）

地区内及び近隣で開催される他の類似事業と調整を図りながら取り組んでいただきたい。

（「結（ゆい）の会」）

地域でのさらなる認知度向上を図りながら、伝統文化を全国へ発信していただきたい。

（福米 RCS）

将来に向けて適時性や継続性が担保されるように、今後はデジタル化等についてもご検討いただきたい。

（城下町のまちづくりを進める会）

ベンチの老朽化対策等にも留意しながら、継続的な取り組みとなるよう、行政とも連携して取り組んでいただきたい。

（夜見地区自治連合会）

見守りマップの意義などについてさらなる周知を図り、地区内での温度差等の解消に努めながら取り組んでいただきたい。

（米子福生風の会）

クラブ化を実現して継続的な取組としていただきたい。

（米子市美術館後援会）

特になし。

（ひがしやマルシェ実行委員会）

これまで及び今回の実施状況を検証しながら、回を重ねるごとにステップアップしていくよう取り組んでいただきたい。